

幼児教育「砂遊び」で学ぶ

八戸

八学短大生

八戸市の八戸学院短期大学部(杉山幸子学長)は6月21日、同市の白浜海岸で「砂浜ゼミ実習」を行った。幼児保育学科の1、2年生約100人が、地域の資源である砂を使ったさまざまな遊び方を実施した。

実習は、子どもたちの想像力や

創造力の育成に役立つとされる砂遊びを体感しながら、学生同士の交流を深めようと2006年度から実施。昨年度まではテーマに沿った「砂浜彫刻」に取り組んでいたが、本年度からは彫刻に限らず、ビーチバレーやビーチフラッグ、スイカ割りなど、砂浜ならではの遊びも行った。

学生たちはゼミ単位に分かれて活動を開始。ピラミッド作りに挑戦したゼミでは、掘り起こした砂を足で踏み固めたり、細部を削ったりしながら約2時間かけて完成させた。また、同海岸を訪れた系列の2幼稚園の園児たちと一緒に、シャベルを使って穴を掘るなどして、より実践的な学びを深めたゼミもあった。

ビーチバレーのコート作りに励んだ、同学科2年の榎谷樹璃さん(19)「同市出身」は「砂は重かったが、友達と協力して作り上げた。実習で学んだことを生かして、みんなに優しく笑顔を絶やさない保育士になりたい」と話した。

砂で「ピラミッド」を作る学生たち



(棟方好華)